

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0590400073	
法人名	株式会社 タクト	
事業所名	グループホーム有浦	
所在地	大館市有浦1丁目4-8	
自己評価作成日	平成23年1月8日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo-service.pref.akita.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉協議会	
所在地	秋田市旭北栄町1-5	
訪問調査日	平成23年1月25日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・入浴は1日3名とし、一人ひとり浴槽のお湯を交換し、家庭的な雰囲気味わっていただきながら、ゆっくり入浴を楽しんでいただいております。 ・行事係りが毎月季節感のある行事を企画行っています。特にバーベキュー会、忘年会にはご家族やご近所の方にも参加していただいております。 ・家庭菜園を作り、利用者さんと一緒に草取りや収穫を楽しんでおります。 ・職員の年齢層が幅広い為(20代~60代)全ての面で平均的な動きができ、職員同士上手く助け合いながら援助ができていると思います。また職員も明るく、笑いが絶えないグループホームです。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>国道沿いの住宅街にあり、向かいに系列の有料老人ホームがあるため看護師との連携体制を確保し、内科医や歯科医による往診などもあり、重度化や看取りについても柔軟に支援している。</p> <p>また、建物は木のぬくもりが感じられ、24時間の床暖房や光触媒の散布、自然素材の消臭スプレーなどで快適・清潔な生活環境づくりに努めており、夜間は夜勤者と宿直者の2名体制で利用者の安全確保にも努めている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月、職員会議やケア会議を職員全員で行い理念に沿った援助が実践できるよう話し合っています。	利用者の意思と人格の尊重、利用者本位のサービス、家庭的な雰囲気づくりを会議理念に掲げ、事務室内への掲示や毎月の職員会議などで職員全員で確認しながら実践に努めている。	前回評価も課題としているが、市民のための事業所であることを掲げており、職員も研修参加などで理念の大切さを感じているため、地域と一体となって利用者の生活を支えることをめざし、職員全体で理念の見直しに向けて検討してほしい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	祭典、町内行事、保育園との交流会、近所の方々との忘年会等で交流に努めております。また、近所のスーパーへの買い物も日課とし店員さんと顔なじみになっております。	町内会に加入し、町内の運動会や盆踊りに参加したり、近隣住民を招待してバーベキューを開催するなど、地域との交流に努めている。 また、近隣スーパーへの買い物を日課としており、店員とも顔馴染みになるなど、地域への理解も深まってきている。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	運営推進会議やGH便により説明しております。また、ご家族や地域の方々を招待しての交流会や地域行事への参加、近所のゴミ拾いを通じご理解いただけるよう努力しております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政担当職員や地域包括支援センターの都合に合わせて開催しており、運営状況及び利用者状況について意見交換を行っている。	母体有料老人ホームと合同で年1~2回開催し、やむを得ず拘束が必要な場合や事故のケースを報告し、意見交換しながら今後のケアに生かしている。	外部評価結果を報告しているため、意見を求めながら改善計画を作成するなど、2か月毎の定期的な開催をめざしながら、今後のサービス向上につなげてほしい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護や権利擁護事業利用者の支援等について随時連携しております。また、利用者さんや待機者などの状況を定期的に報告し、情報を共有しております。	生活保護受給や権利擁護事業利用者がおり、行政担当者等と連携しながら利用者の支援に結びつけている。 また、行政の雇用促進介護プログラムを活用し、介護人材の育成にも取り組んでいる。	行政との連携に努めているが、認知症サポーター養成への協力を契機にしながら、地域包括支援センターとの連携強化についても検討し、取り組んでほしい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中、玄関には施錠せず、センサーを設置しております。また、現在はご家族の同意を得て、床擦れ治療のため夜間、保護衣を着用している利用者さんが1名おります。その他の身体拘束は行っておりません。	身体拘束に関するマニュアルを整備し、やむを得ず一時的に拘束が必要な場合には職員間で十分に話し合い、家族にも事情を説明のうえ同意を得ている。 また、外出したい方には職員が見守り、ともに外出するなど支援している。	玄関にセンサーを設置しているが、過去に外出したケースがあることから、改めて地域住民による見守り協力体制について検討し、利用者の安心・安全な環境づくりに努めてほしい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	行動指針を常に職員が確認できる場所に掲示しております。また、職員間でも注意・情報交換を行い、防止に努めております。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市社会福祉協議会の福祉生活サポートセンターと連携し、利用者さんの権利擁護に努めております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	パンフレットや料金表等を活用し、ご家族や利用者さんに分かりやすいように説明しております。また、不安や疑問点につきましても納得していただけるまで説明し、同意していただいております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所内に苦情相談窓口を設置し、利用者さんやご家族からの苦情があった場合には迅速に対応します。また、必要に応じて市または国民健康保険団体連合会へ報告、指示を仰ぎます。	家族の面会時や毎月の利用料支払いの訪問時に職員が声をかけ、意見や要望などの把握に努めている。	前回評価でも課題としているが、家族の潜在的な思いや意向を把握するための取り組みが実現できていないため、運営推進会議で議題にしなが、今後の取り組みにつなげてほしい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送りや、毎月1回全員参加の職員会議とケア会議で意見交換や提案を聞き、運営に反映させております。	毎月の職員会議では全職員に意見を述べてもらい、ソファの購入や加湿器の設置、行事内容の企画などに意見を反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各種資格の取得や役割分担などを考慮し職員一人一人がやりがいを感じ、向上心を持って働けるような職場の環境を作れるよう努めております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	他施設への研修や研修生等の受け入れをする事により、職員一人一人のケアの向上に繋がるように努めております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設への研修や研修生等の受け入れをする事により、職員一人一人のケアの向上に繋がるように努めております。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	必ず、利用者さん本人からの気持ち、要望を伺っております。訴えの困難な利用者さんに関しては、日常生活を観察した上で、ご本人が安心できる環境・関係づくりを職員間で話し合っております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談・面談は相談者のご都合に合わせてお話を聞き、納得していただけるようゆっくりと時間をもち配慮しております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている ※小規模多機能型居宅介護限定項目とする			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	殆どの利用者さんが開設当初から入居されているため、信頼関係が構築されている。利用者さん一人一人の得意・不得意を知り支え合えるような支援を心掛けております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者さんご家族が、ともに楽しんでいた抱けるような行事の企画や気軽に面会に来ていただけるような雰囲気作りに励んでおります。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人や身内の方の面会は歓迎しております。毎年、楽しみにしている盛岡のお祭りに今年も娘さんが連れて行ってくれた利用者さんもおります。	遠方に住む友人からの電話や同級生が訪れて居室で会話を楽しんでいるほか、毎年家族と祭りに出かけたり、お墓参りで先祖の供養を行うなど、馴染みの関係を継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共有空間を設置し、利用者さん同士が関わりやすい環境づくりに配慮しております。人間関係や相性などを考慮し、良好な関係が築けるよう援助しております。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も気軽に来所、またはご相談いただけるよう、お声掛けさせていただいております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人より今後の生活の意向、希望の確認を行っております。訴えることが困難な方には、ご家族からの意向や生活歴、普段の生活状況から考慮し、ケア会議で検討しております。	利用者の言動や生活状況を基に、職員間で意向について話し合い、奇声を発する方でも感情の起伏を聞き分けながら思いを感じ取るよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際、事前面談・アセスメント及び担当支援専門員より情報提供いただき、経過の把握に努めております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日にケース記録、基本動作の状況を記録に残しております。また、定期的にケア会議を開催し情報交換を行い、現状把握に努めております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的及び、必要時にケア会議を開催しております。利用者さん、ご家族の意思を確認し、各担当と検討しながら計画作成をしております。	独自のアセスメントシートを活用し、利用者及び家族の意向を踏まえて職員間で話し合い、介護計画を作成している。 また、6か月毎の見直しのほか、必要に応じて現状に即した介護計画につなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の介護記録を個人ファイルに保管しております。また、定期的に行うケア会議で目標や援助の計画を職員全員で話し合い会議録として共有しております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる ※小規模多機能型居宅介護限定項目とする			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者さんの家族状況を配慮し、地域権利擁護事業の活用、民生委員、警察、医療機関にご協力いただいております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に協力病院・歯科医等のご説明をし納得いただいております。また、かかりつけやご本人・ご家族の希望があれば、その他の病院受診も可能です。	利用開始時に医療連携体制について説明しており、基本的に通院時は家族に依頼し、月2回のかかりつけ医による往診と歯科医による往診などで支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師による日常の健康管理、服薬管理が行われており、利用者さんの体調不良等はずぐに報告し受診等の支援ができるようになっております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者さんの入院時には、退院予定や身体状況を確認し、退院後の本人やご家族の希望も含め情報交換を行っております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの必要性が生じた際、あるいは終末期については、本人やご家族の意向を聞き慎重に話し合い、協力医院と連携をとりながら援助を進めていきたいと思っております。	重度化や看取りについての指針を整備し、事前に家族へも説明しており、意向に応じて医療機関での対応や看取りなど柔軟に支援している。 また、隣接する系列有料老人ホーム看護師との連携体制を確保しており、利用者の重度化に伴い家族が泊まりながら対応したケースもある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時の緊急連絡体制はマニュアル化しておりますが、応急手当の実践訓練は段階的に講習を受けた職員のみとなっているため、今後講習を受ける職員を増やし実践力を身につけたいと思っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害発生時は隣接している老人ホームへ非難すると共に協力いただけるよう連携をとっております。	災害発生時は隣接する有料老人ホームとの避難誘導など連携・協力体制ができている。 また、スプリンクラーを設置しており、今年度は災害通報装置も設置して設備の充実に努めている。	前回評価でも課題としているが、近隣住民にも避難訓練の参加を呼びかけ、具体的な役割を明確にするためにも、消防計画に基づいた計画的な訓練の実施に努めてほしい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者さんの誇りや人格を損ねないように家庭的で丁寧な馴染みのある言葉での声かけをおこなっております。また、個人情報の持ち出しや漏洩のないよう注意しております。	前回評価結果を受け、個人ファイル等の保管場所にカーテンで目隠しするなど、個人情報の保護に努めている。 また、利用していることを隠したい方には、あまり外出しないなど配慮している。	廊下とトイレの境目にはドアを設置しない方針で、トイレの入口をカーテンで仕切っているが、食事をとるテーブルに近いこともあり、理念に基づいて利用者本位の環境づくりについて運営推進会議や職員間で検討してほしい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者さん一人一人に合わせた声掛けや説明で意思の確認を行い、その時の気持ちに合わせた利用者さん本位の援助に心掛けております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	軽作業や趣味活動など職員が提案することが多いですが、利用者さん個人の判断とペースで活動していただいています。就寝、起床時間もできる限り利用者さんのペースに合わせております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	美容院に出かけたり、ご家族がパーマをかけてくれたりされている方もいらっしゃいます。また、外出の際はお気に入りの洋服に着替えたり、化粧をしたり個人個人でおしゃれを楽しんでおります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買い出し、野菜の下準備、後かたづけ等、利用者さんが得意とする役割を職員と一緒にしております。	職員が1か月毎に担当で献立を作成し、利用者の希望を確認しながら変更するなど柔軟に支援している。 また、きりたんぽや「だまこもち」作りは利用者が率先して行い、バーベキューや誕生日の寿司、正月のおせち料理などで食事を楽しめるよう配慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人に合った食事量を提供し、体重測定による栄養状態の把握を行っております。また、食事や水分量の記録を行いバランスのよい摂取を心掛けております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔内のブラッシング洗浄にて歯周病予防を支援しております。また、義歯装着の方は、夜間洗浄剤のつけ置き除菌を行い口腔内の清潔に努めております。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できる限りトイレでの排泄習慣を保持できるよう個別援助を心掛けておりますが、尊厳の保持のため尿取りパットを使用されている方もおります。	利用者一人ひとりの排泄パターンや状態に合わせてトイレ誘導している。 また、おむつを使用している方はおらず、日中は下着や尿とりパットで、夜間はリハビリパンツや尿とりパットで対応している。	夜間の支援について、誘導時に失禁している状況もみられることから、改めて利用者毎の排泄リズムをチェックしながら、排泄の自立に向けた支援に努めてほしい。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況の把握に努め、水分量や食事に配慮しながら支援しております。便秘が改善されない方には医師に相談し下剤服用にて調整される方もいらっしゃいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の体調や気分に合わせて入浴時間や曜日の変更は行っておりますが、あらかじめ入浴予定日は決めさせていただいております。	週2回の入浴を基本としているが、毎日でも対応が可能で、ゆっくり入浴できるよう一日3名、1人ずつの入浴を支援している。また、入浴剤を使用し、香りや雰囲気を楽しめるよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望や状況を観察しながら休息の声掛けや誘導を行っております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師により処方があった際は、薬の説明や注意事項など連絡帳及び口頭による説明にて周知しております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴及び身体状況を考慮しながら、役割の分担や趣味活動の提案を行っております。ケア会議にて職員の意見や情報を収集し、話し合いながら統一した支援を目指しております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	散歩やテラスでのお茶会、隣接している老人ホームへの訪問や、日帰り旅行等を企画し外出する機会を多くしております。本人及びご家族の希望に合わせて外出に対応できるよう支援しております。	利用者と共に近所を散歩したり、近くのスーパーへ買い物に出かけるなど日常的に外出しており、車イスの方でも日帰り温泉や花見などに共に出かけて楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にお金は事務所で管理しております。ご本人からの物品購入等の希望には都度対応し、ご家族からの同意もいただくようにしております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望は少ないですが、ご本人自ら通話できるよう支援しております。携帯電話を持参されている利用者さんもおりますので、ご家族からの電話の際は、その都度対応しております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内に光触媒の散布や自然素材の消臭スプレーを使用し臭いに配慮しております。また、季節感のある折り紙や行事に関係した物を利用者さんと作成し配置したりと居心地の良い空間になるよう努めております。	ホールの天井は高く、全体的に明るい雰囲気、ソファやテーブル、畳のスペースもあり、台所から全体を見渡せるつくりとしている。 また、床暖房や光触媒の散布、自然素材の消臭スプレーなどで快適で清潔な空間づくりに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	共有空間には4個のソファを設置しており気の合った利用者さん同士が気軽に談笑されております。また、用途に応じて和室やダイニングテーブルも自由に利用されております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある家具や仏壇、寝具などご本人やご家族と相談しながら配置しています。趣味活動の作品や写真等を飾り、自室でゆっくりと安心して寛げるよう配慮しております。	ベットとクローゼットを備え付け、利用者それぞれに使い慣れた家具や仏壇を持ち込み、家族の写真なども飾り安心して過ごせる環境づくりを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーであり、本人の意思で自由に移動可能です。各所に手すりや浴室にはバスボードを設置し、利用者さんの身体状況に合わせて使用しております。		